

国内実態調査報告書

テーマ : 地域課題に挑む先進地、女川町と富岡町に学ぶ
ゼミ名 : 中村 亨 ゼミ
調査日 : 2024 年 8 月 21 日（水）～8 月 24 日（木）
調査先 : 宮城県女川町および福島県富岡町
授業科目名 : ベーシック演習 I
参加学生数 : 15 名（1 年生）

調査の趣旨（目的）

前期の授業において、東日本大震災の被害とその後現在に至るまでの地域活性化の取り組みについて事前学習を行ってきた、宮城県女川町と福島県富岡町を訪問し、民間の経済活動において復興を担う起業家・事業者の方々に会ってお話をうかがう。また富岡町では地域振興を目指して震災後に設立されたとみおかwindメニューで農作業の手伝いに参加し、他のボランティア参加者および事業主の方との交流を図る。

調査結果

女川町では震災遺構を見学しさらにホテルエルファロのオーナー佐々木さんから震災当時のお話を聞くことによって、東日本大震災の被害について理解を深めることができた。また震災後に一新された女川駅舎や駅前の商業施設を見学し、震災後の町の再建計画とその実施の中心となった須田町長と公民連携室長の青山さんのお話をうかがい、復興と現在も続く町の活性化のための取り組みを学ぶことができた。富岡町では町の語り部ガイドツアーにより震災時の様子と原発事故の後の町民避難について話をうかがい、また町のミュージアムを訪問することによって震災の被害について学んだ。さらに原発事故による帰還困難区域の指定が解除されて間もない夜ノ森地区に戻り地域振興のために新たに事業を始めた、バウムハウスヨノモリ店主の遠藤一善さんと夜ノ森デニム店主小林さんのお話をそれぞれの店内でお聞きした。また震災後に東京の大学を卒業して富岡町に移住し酒造会社を設立した渡邊さんのお話をうかがい、翌日はとみおかwindメニューで防鳥ネット張りを手伝い、代表の遠藤秀文さんのお話をうかがった。現地の方々の話を聞くことによって、資料や関連書籍といった活字を通してだけでは得られない学びがあった。